

けいはんな学研都市新たな都市創造委員会
第2回総会 議事概要

日時：平成27年11月26日（10:00～12:15）

場所：ウェスティン都ホテル京都 2階山城の間

《議事》

1. 開会
2. 主催者挨拶
3. 議事（1）けいはんな学研都市 新たな都市創造に向けて中間とりまとめ（素案）
（2）その他
4. 閉会

—事務局説明—

《主な発言内容（順不動）》

① 総論、ビジョン等

- ・ 本都市は国内、あるいは国際的にも一つのショーケースとなる場所なのではないか。「産官学住」の4つの要素が一体となり、生活環境、文化、歴史を重視しつつ、自然、里山環境を整備し、花鳥風月をきちんとアイデンティティをもって提案できるような地域にしていくことが必要。
- ・ けいはんなから世の中の役に立つ研究成果を世に出していければよい。
- ・ 「世界の未来への貢献」と「知と文化の創造」の2つの柱を掲げたことはよい。これらは国家戦略として取り組むべき課題でもあるので、国も積極的に関わっていただきたい。
- ・ 都市創造のビジョンについては、各機関での共通認識（ポリシー）を持つことが重要である。けいはんなはイノベーション・イニシアチブの能力を持っている。
- ・ ビジョンの提示は一定できてきた。
- ・ ナレッジリンクに関して「関西の中核的な科学技術・イノベーション拠点として、新たな価値創造を世界に発信していく」という視点はよい。本都市はCO2問題やiPS等、国家的な課題の研究に取り組んできており、けいはんなの内部に閉じた狭い視野で見るべきではない。

② 文化・学術研究の振興

- ・ P22の「文化」は非常に広い捉え方になっている。模索しているからだろう。科学技術と歴史的文化資源との連携（多言語音声翻訳技術の活用等）はあるが、けいはんならしい新たな文化の創造（メディアアートなどを含め）に軸足を置くという考え方もある。歴史文化資産としての拠点をここに求めていくというより、ここで新たな文化を創造していくという方がこの地域らしい面があるのではないか。
- ・ 文化については、高い技術力や志の高い企業倫理も「文化」と呼べるのではないか。
- ・ 日本庭園を有しているが、これはアイデンティティにつながる。アイデンティティが感じられるようなまちづくりが、今後のブランディングにつながるのではないか。
- ・ 今後、いかにけいはんなの特色を強く出していくかが重要である。三府県の歴史を新しいまちにうまく使っていくことができないか。

- ・日本は「グローバル・ジェンダー・ギャップ・レポート 2015」で世界の 101 位。女性の就労、政策への関与が低い。国の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」でも、地域で働く人材育成を目指している。本都市でも女性の就労、子育てが望める。大学としてもけいはんななどの強いコネクションを求めたい。
- ・また、博士課程への進学者が減少しているため、産官学が連携したイノベーション人材の育成を検討してほしい。
- ・研究者が住む条件として、子育て、教育環境（特に小中高校の 10 代）の充実が重要ではないか。インターナショナルスクールだけでなく国内の中高一貫校などもあってよいのでは。
- ・研究開発型産業施設が、優秀なパート女性を含め雇用の吸収力を高めているのは、高い技術力と志の高い企業倫理の会社で働いていることにやりがいを感じているからではないか。

③ イノベーション推進

- ・食料、医療、エネルギー等々はずまるところ「人」の科学だろう。今後の研究開発の具体的な方向性は、ハード（工学技術）に加えてウェット（生体機能）なもの。その重要なものの一つが脳科学と思う。未来を見据えた計画が必要。
- ・今後重要なテーマであるヘルスケアについて、多世代が健康に暮らすまちづくりがけいはんなになじむテーマと思うので記載の充実を。
- ・食料、エネルギー、医療等をテーマとして、KICK でオープンイノベーションにより共同研究を進めることができればよい。
- ・NICT と連携し自動翻訳に関する研究を進めているほか、NICT、ATR と連携して脳情報科学等の研究を進めている。
- ・科学技術イノベーション政策には、科学技術の成果を迅速に社会に実装することが求められているが、そのためには人材、知、資金等の効果的な循環システムの構築が重要である。研究機関の集積が顕著なけいはんなにおいて、持続的なイノベーション創出のための企業、大学、公的機関等の交流連携を進めるための独自の仕組みづくりを。
- ・イノベーションの創出がけいはんなの使命であり、KICK を始めとするオープンイノベーションの取組の成果を社会に広げていくための仕組みづくり（プロデューサーの人材配置等）に向けた検討が必要。
- ・複数の企業でコラボしていく際には最初の目的が合致している場合はスムーズに進むが、そうでない場合は間を取り持ち各社の強みを活かすハブ機能（プラットフォーム）が重要となる。
- ・今のキーワードはオープンイノベーションである。そのためには、研究会、共同研究の場だけではなく、入り口部分の新しい仕組みづくりを検討してほしい。
- ・イノベーション＝新たな産業革命では、従来の既得権益をどう壊し、革命を起こすかがポイント。
- ・イノベーションの促進について、関西、大阪には多くの中小企業が立地しており、そこの連携や研究開発～商品化までのトータルな支援ができる仕組みの構築についても記述の充実を。
- ・全てについてオープンイノベーションとすることは難しいが、共同領域と競争領域を切り分け、共同でできるイノベーションには積極的に参画していきたい。
- ・オープンイノベーションがキーワード。関西光科学研究所は平成 28 年 4 月に、原研から分離し放医研（千葉）と一緒に新に量子科学技術研究開発機構となる。オープンな開かれた組織と

なるので寄与していきたい。

- ・ オープンイノベーションの体制作りはありがたい。少しでも協力していきたい。
- ・ 弊社の取組むコミュニケーションは「通信」だけではない。様々な面で貢献できると思う。
- ・ 研究機関の成果を実証する場として元からあるまちを活用することができる。「健康」が一番大きなテーマで、けいはんな内の住民の健康管理をウェアラブルセンサー等で常時ウォッチしていくような取り組みも考えられる。
- ・ 地域の特徴を活かし、市民を巻き込んで社会実装のできるまちとして売り込んでいくことが重要。
- ・ 社会実装=技術移転だけでは不十分で、技術は使い続けられなければだめ。ビジネスまできちんと使える技術にしないといけない。
- ・ 現在、当研究所のなかに先進的音声翻訳研究開発推進センター（ASTREC）を立ち上げ 14 社 19 名の参画でオープンイノベーションによる研究開発を推進中。実証実験を平成 28 年度から本格的にスタートする。また、脳科学、ディープラーニング（AI）等の技術を社会に出せる状況にある。
- ・ 海外機関の誘致や企業の誘致促進だけでなく、政府関係機関、公的機関の移転や立地を強く推進していくことについても記述されたい。
- ・ 国内外の研究者に多く来てもらうためには、住環境や子どもの教育環境の整備が必要。方向性としてアジア太平洋大学のようなものがあってよい。
- ・ 今後、次世代、外国人の人材育成が重要である。同志社インターナショナルスクールの活用（外国人研究者の短期滞在等）も検討してほしい。安心して滞在できる施設として。
- ・ 海外の研究者等を誘致するためには、配偶者の働き口、子どもの教育環境の充実が重要。
- ・ 今後「行動の指針」づくりに向け、具体的な取組内容の検討を深めたい。幹事機関の一員として、関経連もイノベーションの推進に責任を持っている。仕組み論は仕組み論として、タマ=具体的に取組む事業（社会実装に向けた共同研究プロジェクト等）の検討が必要である。
- ・ 国の公募事業などのメニューの効果的な活用を。地方創生の新型交付金には産学連携型もあるので。
- ・ 内閣府は関係する省庁と連携して、地域主導の様々なプログラムを効果的に活用できる環境を整えていきたい。
- ・ 立地機関や住民がお客様である。よい研究がなされ、人口も増えることは重要。
- ・ 研究開発型産業施設のけいはんなへの立地目的、達成状況、不満点、良い点等の情報をアンケートで集約してはどうか。

④ 都市形成

- ・ 本都市はクラスター型開発となっており、コンパクトシティの先進事例。多様性のある都市・空間、諸活動、機能等の連携を長期的に図っていくことが本都市発展の土台である。
- ・ クラスター間の物理的な連携もあるが、情報の連携も重要。それによりコンパクトシティ化ももっと進むだろう。
- ・ クラスターをいかに特徴的にするかが重要ではないか。
- ・ 残されている未開発地域をどのように展開していくかも次のテーマ。
- ・ 現在、未着手地区である高山地区について、今後の方向性を検討している。
- ・ 未定地区である北田原地区の扱いも高山地区との連携も含め、今後、検討していく必要があると考えている。

- ・ クラスター間、都市部へのアクセス、特に国道 163 号線の改善は重要。また、研究者の交流を活性化していくためにも関空から欧米への基幹航路の充実も重要。
- ・ 域内交通については各クラスター連携が今後のテーマ。愛知万博のようなシステム（自動走行バス等）が考えられる。
- ・ クラスター連携は交通システムが根本。パーソナルモビリティ（EV 等）なども実証テーマ。これらにより都市自体をどのように魅力あるものにするかがポイント。
- ・ クラスター間のロジスティックスをいかにつなぐかが今後の課題。地形的な条件もある。
- ・ 研究者は特に任期付の場合、交通の便や環境の良さを求めるので、交通基盤整備は重要。
- ・ けいはんな内の移動の利便性の充実にさらに図ってほしい。
- ・ 電車の移動ではクラスター間移動は不便であり、交流を図るためにも交通アクセスの充実を検討してほしい。
- ・ けいはんなには「良いまち」として必要な生活環境はほぼ備わっており、無いのは美術館ぐらい。したがって、今後は今ある生活環境（緑、自然など）の質を維持、管理してことが大切で、そのためには、周辺の企業等が連携し、取り組む必要がある。
- ・ 開発地域以外の里山環境が放置されている現状がある中、木質バイオマス等の先端技術を活用しつつ、里山風景の再生に取り組んではどうか。

⑤ 都市運営

- ・ 都市運営について、全体をまとめる大きな組織体についての提案は非常に大事だと思う。来年度以降、多様性と連携を都市運営の仕組みの中で発揮するといった観点で、機能的、実践的な取組の場づくりが必要。
- ・ 都市運営のコアが重要。三府県の行政、企業、住民の連携が今後の課題。